

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
102-277	高等学校	芸術	美術 I	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	美 I 702	高校生の美術 1		

I. 編修の趣旨及び留意点

- 本教科書は教育基本法第一条に示す教育の目的及び第二条に示す教育の目標に則り、「高等学校学習指導要領第 1 章 総則」、及び「第 2 章 第 7 節 芸術」、「第 2 款 第 4 美術 I 」に示された趣旨並びに目標や内容を基にして編修に努めた。
- 本教科書の編修に当たっては、特に「高等学校としての美術の学びを実感し、美術を通して生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を養うことができる教科書」を目指し、以下の 3 事項を重視して新しい教科書を編修することを趣旨とした。

(1) 中学校美術としての学びの連続性がある教科書

- ・中学校美術の学習を踏まえ、学びを「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し明確にした上で、絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現、鑑賞の各題材ページを作成した。加えて、形や色彩、イメージなどの〔共通事項〕に配慮して感じ取る視点や考える視点などを盛り込んだ。

(2) 高等学校美術としての学びが実感できる教科書

- ・高等学校美術としての学びが実感できるように次のような工夫をした。
 - ①巻頭オリエンテーションの役割を明確にし、美術とは何かを考えたり、見方・考え方を働かせて新たな視点でものを見たりするなど、課題をもちながら教科書の各題材を学んでいけるようにした。
 - ②各題材に、学習のねらいを短い言葉で分かりやすく記載し、学びの目標を①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で示すとともに、高校生の作品を掲載し、表現意図が分かる作者の言葉を添えた。
 - ③対象や心の中を深く見つめる、作家の生き方と美術を考える、日本の美術作品や文化を理解するなど、高校生の発達にあった深みのある題材を配列した。

(3) 生活や社会と豊かに関わる力を育む教科書

- ・身近な生活の中にあるものや場面、風景などを見つめ直したり、生活の中にあるデザインなどについて考えたりできるように、題材の設定や図版の選定に配慮した。
- ・デザイナーのインタビューを掲載したオリエンテーション、自分自身の生活と美術との関わりを意識させるページ、様々な分野で活躍する著名人が美術との関わりを述べたページなど、生活や社会と美術との関わりが意識できるように工夫した。

Ⅱ. 編修の基本方針

○本教科書においては、教育基本法第二条に示される教育の目的を達成するために、七つの具体的な基本方針を定め、編修に努めた。

・二条第一号は①と②に、第二号は③に、第三号は④に、第四号は⑤に、第五号は⑥と⑦に対応している。

第二条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 三 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 四 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

○教科書編修に関する具体的な基本方針

①幅広い知識と教養を身に付ける

弊社が発行する従来の教科書を基に、絵画・彫刻、デザイン、映像メディア表現、鑑賞について幅広く学びが深まるように、育成する資質・能力を一層明確にし、各題材ページや、美術史、技法等のページを整理したり図版を大きくしたりするなど充実を図った。

②豊かな情操と道徳心を培う

芸術としての美術の学びを重視し、表現することの意義や作者の心情などを理解できるように題材や記述内容を工夫した。これにより、自己や他者の考えや作品を大切にする心、よさや美しさを大切な価値とし、それを求めようとする心などが育成されることをねらいとした。

③個人の価値を尊重し、創造性を培い、勤労を重んずる態度を養う

主題の生成や作者の意図と表現の工夫を重視し、生徒が感性や創造性を発揮しながら自己の価値意識をもって表現や鑑賞ができるように題材や記述内容を工夫した。また、表現と鑑賞の関連を明確にすることで、時間をかけて集中して制作に取り組む中で、自己の課題に気付き改善を図りながら努力することのよさや達成感が味わえるような授業を目指す教科書づくりに配慮した。

④正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力、社会形成に参画する態度を養う

鑑賞活動や映像メディア表現での共同制作において、他者との学び合いや話し合いの場を通して、学びの中から正義と責任、男女の平等、自他の敬愛を重んずる心情を培えるようにした。また、公共の場で用いられるデザインを考えることで、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるような題材を盛り込んだ。

⑤生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する

自然のよさや美しさを見つめ直したり、自然との共生や環境との調和から美術を考えたりする題材を設定し、自然を大切にし、美しい環境を保全していく態度の形成に寄与する教科書づくりに配慮した。

⑥伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する

日本や西洋の美術の鑑賞題材の充実を図るとともに、特に屏風絵や絵巻などの生活に息づく日本美術や浮世絵などについては複数のページを割り当て、図版を大きくしたり蛇腹の折込ページで絵巻を掲載したりするなど、知識等を学びながらよさが実感できるように充実させた。

⑦国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う

自己の表現とともに他者の表現も大切にしている心情や、自国の文化とともに他国の文化を尊重する態度などを育成することで、美術による人間理解や国際理解が深められ、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことのできる内容にした。

Ⅲ. 対照表

○本教科書は学習指導要領に示されている内容の構成に基づき、生徒の学習のしやすさを考慮してオリエンテーション、絵画・彫刻など（表現・鑑賞）、デザイン（表現・鑑賞）、映像メディア表現（表現・鑑賞）、資料に分類している。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や留意点	該当箇所
オリエンテーション	<p>① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。</p> <p>② 美術作品を見ることは、自分の価値観や考え方に気付くことや新たな見方・考え方に気付くことであり、美術は自分の中につくりだされるものであるという考えに触れることは、個人の価値を尊重し、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うことに通じる。生徒にその機会を与えるべく編修に努めた（第二号）。</p>	<p>①p. 2～5</p> <p>②p. 2～5</p>
絵画・彫刻など	<p>① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。</p> <p>② 一人一人のよさや個性が尊重され、その能力を十分発揮する中で、相互に創造性を高め合うことができるような表現と鑑賞の活動を充実させた（第二号）。</p> <p>③ 自他を見つめ、それぞれの個性を尊重し生命を尊ぶ態度や、身近な環境や自然を見つめて美しさを発見し、環境の保全に寄与する態度を育む機会となる内容を設けた（第四号）。</p> <p>④ 屏風絵や絵巻物、浮世絵等の日本の美術や西洋の著名な作家を取り上げ、それぞれのよさや人々の思いなどを理解することで、我が国と他国の文化を尊重する態度を養うことをねらいとした（第五号）。</p>	<p>①p. 6～67</p> <p>②p. 6～67</p> <p>③p. 6～67</p> <p>④p. 26～37 p. 53～55</p>
デザイン	<p>① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。</p> <p>② 第一線で活躍するデザイナーの考え方に触れることで、デザインの目的やデザイナーの思考を理解し、デザインの仕事が日常生活と密接していることや、デザインの仕事に対する意識を高められるよう配慮した（第二号）。</p> <p>③ 身近な生活から広く社会全般を見つめ、課題を発見し、造形を通して課題を解決する能力を培うことは、社会正義と自らの責任を重んじ、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うことになる。デザインの表現と鑑賞の活動を通して、その能力を培えるよう配慮した（第三号）。</p> <p>④ 身近な環境や自然を見つめて美しさを発見し、造形に生かす力を培うとともに、環境の保全に寄与する態度を育めるよう配慮した（第四号）。</p>	<p>①p. 68～95</p> <p>②p. 70・71</p> <p>③p. 68～95</p> <p>④p. 82・83 p. 86・87 p. 90・91</p>

映像メディア表現	<p>① 美術の表現と鑑賞の活動が、美という普遍的価値を軸に、真理を求め、よりよく生きようとする人間の精神に触れる機会になるように、取り上げる作品や事例を厳選した（第一号）。</p> <p>② 身近な生活から広く社会全般を見つめ、課題を発見し、造形を通して課題を解決する能力を培うことは、社会正義と自らの責任を重んじ、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度を養うことになる。映像メディア表現の表現と鑑賞の活動を通して、その力を培えるよう配慮した（第三号）。</p>	<p>①p. 92～102</p> <p>②p. 92～102</p>
資料	<p>① 我が国及び他国の美術文化の歴史を知ることは、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うとともに、我が国の伝統と文化を尊重し、他国を尊重して国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことに通じる。そのようなねらいをもって、美術史に関する資料を豊富に設定した（第一号、第五号）。</p> <p>② 美術で用いる描画材料について知り、表現技術の習得に励むことは、人類の長い歴史の中で培われてきた知識や教養を身に付け、美や人間存在の探求という真理を求める態度を養うことに通じる。また、表現の多様性を知ること個人価値を尊重し、創造性を培うことに通じると考え、表現技法に関する資料を豊富に設定した（第一号、第二号）。</p> <p>③ 美術の授業で学んだ力を発揮できる場面や、将来の職業に生かされる内容を紹介し、職業及び生活との関連が図られるよう配慮した（第二号）。</p>	<p>①p. 102～126</p> <p>②p. 130～154</p> <p>③p. 157</p>

IV. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 学習の課題を設置

- ・表現題材に具体的な表現課題を設置し、課題から生まれた生徒作品や生徒の言葉などを記載した。表現活動における発想や構想のプロセスを参考にできるよう努めた。

(2) 学習内容の関連を重視

- ・教科書を学習資料として一層使用しやすくし、生徒の学習効果が高まることを期待して、題材の内容や掲載している作家、作品などに関連する項目が他のページに掲載されている場合、関連ページを参照できるようにリンクを記載した。

(3) 主体的・対話的で深い学びの推進

- ・各題材の本文の多くを問いかける文体にし、学習のねらいや学びの目標にその解決に結びつく気付かせたい視点や考え方を盛り込むことで、見方・考え方を働かせて、主体的・対話的で深い学びが推進される中で、ねらいとする資質・能力が育成されるように工夫した。

(4) 他教科との関連を重視

- ・日本史や世界史などの教科書に掲載されている美術作家や作品、家庭科で取り上げられている住生活のデザイン、化学の炎色反応など、他教科で取り上げられている内容を研究し、積極的に教科書の紙面に反映させることで、他教科との関連を図り、生徒の学びが一層深まるように配慮した。

(5) 言語能力の育成

- ・鑑賞活動では生徒同士の意見交換が深まるよう、鑑賞のポイントなどを掲載し、話し合いを促すような工夫を凝らした。
- ・デザインの活動では、制作者の思考のプロセスを言語と図で分かりやすく掲載し、自分の考えを言語化し、伝えることの大切さとその技術について学べるよう配慮した。

(6) 社会との連携

- 地域社会や作家、美術館などの公共施設との関連を視野に入れた学習活動を紹介するページを設け、生徒の学習意欲が向上するように工夫した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
102-277	高等学校	芸術	美術 I	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	美 I 702	高校生の美術 1		

I. 編修上特に意を用いた点や特色

○本教科書は「高等学校学習指導要領 第1章 総則」、及び「第2章 第7節 芸術」、「第2款 第4 美術 I」に示された趣旨並びに目標や内容を基にして、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することができるよう、以下の各項目において特に意を用いて編修した。

(1) 実態調査を基にした題材設定

・幅広い創造活動を体験し、豊かな美的体験ができるよう、全国で行われている授業の実態を調査し、取り組みやすい題材から応用的な題材まで、豊富な事例を用意した。

①多くの学校で取り組まれている、身近なもの、風景、ポスターなどを描く題材では、4ページ構成にして参考作品を多く提示するとともに、高校生の作品とその制作意図を掲載し、主題性のある表現を追求できるようにした。

②視点と描き方や、光とかげ、大きさをイメージして見るなど、いろいろな観点からの鑑賞題材を配列し、見方や感じ方、考え方が深まるようにした。

(2) 参考作品を幅広く豊富に掲載

・生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成できるよう、身近な内容から普遍的な価値をもつ美術作品まで幅広く掲載し、多方面から興味をもって学習に取り組めるよう留意した。

①身近なものや人物、風景などを見つめ直す題材や、身の回りのデザインを取り上げた題材など、身近な自然や生活の中から題材を設定し、生活や社会の中で美術を意識できるようにした。

②西洋の著名な作家や日本の美術などについて、複数の図版や丁寧な解説を加えることにより、興味・関心や理解が深まるようにした。

(3) 明確な学びの視点と学習のねらい

・感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばせるよう、各題材の学びの視点を明確に示し、主体的・対話的で深い学びが推進される中で、ねらいとする資質・能力が育成されるように留意した。

①各題材の本文の多くを問いかける文体にし、学習のねらいや学びの目標に、その解決に結びつく気付かせたい視点や考え方を盛り込むことで、見方・考え方を働かせて、主体的・対話的で深い学びが推進される中で、ねらいとする資質・能力が育成されるように工夫した。

②各題材に、分かりやすく短い言葉で学習のねらいを明確に示した。

③学習指導要領の目標及び内容が、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の三つの柱で整理されたことを踏まえて、題材ごとに学びの目標を三つの観点で示し、指導と評価の視点を明確にした。

(4) 美術文化や美術史の充実

・美術文化についての理解を深められるよう、各題材では学習内容の参考となる美術作品を、美術史の長い歴

史の中から精選し、掲載した。

- ①題材の参考作品を掲載する際に、美術史的な観点から著名な作家や作品に配慮して作品を選択した。
- ②日本や西洋の美術の鑑賞題材の充実を図るとともに、特に屏風絵や絵巻物などの生活に息づく日本美術や浮世絵等の題材ページについて、知識等を学びながらよさが実感できるように、絵巻を蛇腹の折込ページにするなど、図版や解説を充実させた。

(5) 技法・色彩資料の充実

- ・高等学校において美術を学習する上で、身に付けておきたい材料や用具についての知識、表現技法などを、幅広く取り上げた。
- ①各題材を学習する上で必要になる固有な技法については、当該のページで解説し、色彩の基礎やモダンテクニックなどの技法、材料用具の扱いや制作のプロセスなど、様々な表現の基礎的な内容となる技法については資料ページに掲載するなど、授業での使いやすさに配慮した。
- ②色彩について知識理解を深め活用するための資料を巻末にまとめた。色相環は中学校との関連に配慮してPCCSの12色相環とトーン分類図、実社会での使用されることが多いマンセルの20色相環を掲載した。色相環のページは片観音で本の外側に広げられるように設定し、どのページを学習していても、いつでも参照できるように工夫した。

(6) 学習意欲向上への工夫

- ・生徒が教科書を開くことに楽しみを覚え、高い意欲で学習に取り組めるよう、様々な工夫を施した。
- ①実際の作品の大きさを体感し、作家の表現の工夫を読み取ることができるよう、原寸大で作品を掲載するページを複数設定した。また、絵巻を蛇腹の折込ページで掲載したり、両観音で開くページを複数設け、大画面で作品を鑑賞したり、美術史の流れを把握したりすることができるよう配慮した。
- ②作品を掲載している作家をイメージしたイラストと作家の言葉を掲載し、作家の考えに触れられるよう工夫した。
- ③日本の伝統的な美術文化である判じ絵をクイズ形式で掲載したり、錯視の図版を掲載したりすることで、楽しみながら、美術が日常の生活に潤いを与える役割を果たしていることを学べるようにした。
- ④生徒の造形への関心を高めるために、技法・資料の扉の部分に、透明フィルムを重ねることで形や色彩の錯視を実感できるページを設けた。

(7) 「学びを振り返ろう」「著作権と肖像権」「美術館に行こう」「これからの私と美術」

- ・生徒が学びを振り返り、改善していく自己調整にかかわるスキルを育成したり、自己の学びを可視化して蓄積したりするために、「学びを振り返ろう」のページを設定した。
- ・創造することの価値を捉え、自己や他者の作品を尊重する態度の形成を図るとともに、美術に関する知的財産権や肖像権などについての理解を深められるように、「著作権と肖像権」のページを設定した。
- ・美術館を身近な存在として感じ、行く機会を増やしてもらうことを願って、「美術館に行こう」のページを設定した。美術館の役割や学芸員の仕事内容、展示室での鑑賞のポイントやマナーなどを写真とイラストで紹介し、美術館に対する興味を深められるよう工夫した。
- ・生徒が美術を学ぶことの意義について、日常生活や将来像との関係から実感をもって把握できるよう、「これからの私と美術」のページを、様々な分野で活躍する著名人の言葉で巻末に例示した。

Ⅱ. 対照表

学習指導要領の内容の構成		事項	
領域	A 表現	(1) 絵画・彫刻	<p>ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想 (ア)自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成すること。 (イ)表現形式の特性を生かし、形態や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。 イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア)意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 (イ)表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すこと。</p>
		(2) デザイン	<p>ア 目的や機能などを考えた発想や構想 (ア)目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成すること。 (イ)デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。 イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア)意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 (イ)表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すこと</p>
		(3) 映像メディア表現	<p>ア 映像メディアの特性を踏まえた発想や構想 (ア)感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成すること。 (イ)色光や視点、動きなどの映像表現の視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練ること。 イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能。 (ア)意図に応じて映像メディア機器等の用具の特性を生かすこと。 (イ)表現方法を創意工夫し、表現の意図を効果的に表すこと。</p>
	B 鑑賞	(1) 鑑賞	<p>ア 美術作品などの見方や感じ方を深める鑑賞 (ア)造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。 (イ)目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。 (ウ)映像メディア表現の特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。 イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める鑑賞 (ア)環境の中に見られる創造的なよさや美しさを感じ取り、自然と美術の関わり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、見方や感じ方を深めること。 (イ)日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などから美意識や創造性などを感じ取り、日本の美術の歴史や表現の特質、それぞれの国の美術文化について考え、見方や感じ方を深めること。</p>
[共通事項]	(1)	<p>ア 造形の要素の働きを理解すること。 イ 造形の特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。</p>	

図書の構成・内容		学習指導要領の内容			内容の取扱い	該当箇所
		A 表現	B 鑑賞	[共通事項]		
オリエンテーション	美術とは何か		(1)ア(ア) イ(ア)(イ)	(1)アイ	(4)(8)(9)	p.2・3
	見る 感じ取る 考える 表す		(1)ア(ア)イ(ア)	(1)アイ	(4)(8)(9)	p.4・5
絵画	身近なものを描く	(1)ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1)ア(ア)	(1)アイ	(1)(2)(3)(4)(5) (6)(8)(9)(10)	p.6~9

絵画 彫刻	植物を描く	(1) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(ア)イ(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	p. 10・11
	視点と表し方		(1) ア(ア)	(1) アイ	(3) (4) (8) (9)	p. 12・13
	私の見付けた風景	(1) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(ア)イ(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (8) (9) (10)	p. 14~17
	人物を描く	(1) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (8) (9) (10)	p. 18~21
	光を捉える		(1) ア(ア)イ(ア)	(1) アイ	(3) (4) (8) (9)	p. 22・23
	想像を形に	(1) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (8) (9) (10)	p. 24・25
	日本美術		(1) ア(ア)イ(イ)	(1) アイ	(3) (4) (7) (8) (9)	p. 26~31
	浮世絵版画の魅力		(1) ア(ア)イ(イ)	(1) アイ	(3) (4) (7) (8) (9)	p. 32~37
	版で表す	ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(ア)イ(イ)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	p. 38・39
	墨表現の可能性	ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(ア)イ(イ)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	p. 40・41
	漫画の表現	ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(ア)イ(イ)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	p. 42・43
	視覚のトリックを生かして	ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (8) (9) (10)	p. 44・45
	大きさを意識して		(1) ア(ア)	(1) アイ	(3) (4) (8) (9)	p. 46~52
	作家探究 レオナルド・ダ・ヴィンチ		(1) ア(ア) イ(ア)(イ)	(1) アイ	(3) (4) (8) (9)	p. 53~55
彫刻	立体表現の魅力		(1) ア(ア)イ(イ)	(1) アイ	(3) (4) (7) (8) (9)	p. 56・57
	塑像で表す	(1) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (8) (9) (10)	p. 58・59
	彫って表す	(1) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (8) (9) (10)	p. 60・61
	抽象彫刻で表す	(1) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(ア) イ(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (8) (9) (10)	p. 62・63
	身近な素材と立体表現	(1) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(ア)イ(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (8) (9) (10)	p. 64・65
	祈りの形		(1) ア(ア)イ(イ)	(1) アイ	(3) (4) (7) (8) (9)	p. 66・67
デザイン	デザインの世界		(1) ア(イ)イ(ア)	(1) アイ	(3) (4) (8) (9)	p. 68・69
	私の考えるデザイン		(1) ア(イ)イ(ア)	(1) アイ	(3) (4) (8) (9)	p. 70・71
	ポスターで伝える	(2) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(イ)イ(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (8) (9) (10)	p. 72~75
	サインのデザイン	(2) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(イ)イ(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (8) (9) (10)	p. 76・77
	イラストレーションの魅力		(1) ア(イ)イ(ア)	(1) アイ	(3) (4) (8) (9) (10)	p. 78・79

	キャラクターのデザイン	(2) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(イ)イ(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (8) (9) (10)	p. 80・81
	生活を彩る模様	(2) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(イ)イ(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	p. 82・83
	パッケージのデザイン	(2) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(イ)イ(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	p. 84・85
	暮らしの中の使うデザイン	(2) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(イ)イ(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	p. 86・87
	デザインとテクノロジー		(1) ア(イ)イ(ア)	(1) アイ	(3) (4) (8) (9)	p. 88・89
	作家探究 アントニ・ガウディ		(1) ア(イ)イ(ア)	(1) アイ	(3) (4) (8) (9)	p. 90・91
映像メディア表現	写真で表す	(3) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(ウ)イ(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (8) (9) (10)	p. 92~95
	アニメーションの手法	(3) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(ウ)イ(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	p. 96・97
	映像で伝えるメッセージ	(3) ア(ア)(イ)イ (ア)(イ)	(1) ア(ウ) イ(ア)	(1) アイ	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	p. 98・99
	映像に包まれて		(1) ア(ウ)イ(ア)	(1) アイ	(3) (4) (8) (9)	p. 100・101
資料	美術史扉				(3) (4) (9)	p. 102
	西洋の美術				(3) (4) (9)	p. 103・104 p. 109~115
	美術史年表				(3) (4) (9)	p. 105~108
	日本の美術				(3) (4) (7) (9)	p. 116~122
	近代デザイン史				(3) (4) (9)	p. 123・124
	映像メディア史				(3) (4) (9)	p. 125・126
	さまざまな描画材料				(10)	p. 130
	いろいろな絵の具				(10)	p. 131
	鉛筆デッサン				(4) (5) (6) (8) (10)	p. 132~135
	水彩画を描く				(4) (5) (6) (8) (10)	p. 136・137
	油彩画を描く				(4) (5) (6) (8) (10)	p. 138・139
	日本画を描く				(4) (5) (6) (7) (8) (10)	p. 140・141
	アクリル絵の具の可能性				(4) (5) (6) (8) (10)	p. 142・143
	版画の種類				(4) (5) (6) (8) (10)	p. 144
	さまざまな表現技法				(4) (8) (10)	p. 145
	写真の基礎				(4) (10)	p. 146
	伝える映像表現				(4) (5) (6) (8) (10)	p. 147
	アニメーションの基礎				(4) (10)	p. 148
	文字の基本				(4) (10)	p. 149
	美の秩序				(4) (8)	p. 150・151
色彩				(4) (8)	p. 152~154	
学びを振り返ろう／ 著作権と肖像権				(4) (6) (8) (9)	p. 155	
美術館に行こう				(3) (9)	p. 156	
これからの私と美術				(4) (8)	p. 157	